

みやぎ母乳育児をすすめる会

ニュース No.60



2023. 5

目 次

巻 頭 言

みやぎ母乳育児をすすめる会 副理事長 大槻 健郎 …… 1

■ 母乳育児奮闘記

生まれたばかりの赤ちゃんは多くの能力を持っている...に違いない、その2

みやぎ母乳育児をすすめる会 監事 塚 武男 …… 2

■ みやぎ母乳育児をすすめる会

ワークショップ2023 @Zoom 開催報告

仙台市立病院 山本 優子 …… 4

■ 宮城版ワークショップ2023 @Zoom に

ファシリテーターとして参加して

仙台市立病院 芳賀 深雪 …… 8

■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2022年度 第4回 理事・幹事会議事録 ……10

■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2022年度 第5回 理事・幹事会議事録 ……13

■ 「第14回東北母乳の会 in あおもり」のご案内

あおもり母乳の会事務局 ……17

■ みやぎ母乳育児をすすめる会

定例会2023@Zoomのお知らせ ……19

巻 頭 言

みやぎ母乳育児をすすめる会 副理事長 大槻 健郎

今年も桜の開花時期となりました、各地で例年よりも早く開花し春らしい雰囲気になってきました。3月には侍JAPANのWBC優勝という、うれしいニュースがあり、およそ3年続いたコロナ禍に対する社会の対応も大きく変わろうとしています。3月13日以降、マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本となりました。もちろん、コロナウイルスの感染力が変化するわけではありませんので、病院では今まで通りの感染予防対応を行っていますが、高校野球・春の甲子園大会やプロ野球では、応援制限がなくなりコロナ禍前の状態に戻ろうとしています。

コロナ禍は母乳育児支援にも大きな影を落としました。感染妊婦の分娩では、支援者が感染しないように直接指導ができなかったり、母児感染を防ぐために母児分離を余儀なくされました。直接母乳を避ける指導は欧米よりも日本で多く行われたため、日本の新生児感染率は非常に低くなりましたが、母児分離が愛着形成に与える影響は不透明です。

コロナ禍による生活様式の変化や母親の就業率の増加により、育児・授乳に対する考え方は十人十色となっています。正しい知識に基づき、支援者がベストだと思う育児支援が必ずしも受け入れられるとは限らないという非常に難しい状況です。正しい育児支援を提供するという与える支援ではなく、子供と母親に寄り添い、その家庭に最適な育児支援を一緒に考えていくという新たな支援が必要です。

今年には本会設立30周年となります。5月の定例会では仙台医療センター小児科の千葉洋夫先生に母乳とビタミンに関する内容で講演していただく予定です。その後も6月の東北母乳の会、設立30周年記念行事と多くの企画があります。それぞれが支援者個人の糧になるよう盛り上げていきましょう。

「母乳育児奮闘記」

みやぎ母乳育児をすすめる会 監事 堺 武男

第 23 回

生まれたばかりの赤ちゃんは多くの能力を持っている...に違いない、その2

前回は早期母子接触で生まれたばかりの赤ちゃんが母親の乳頭に辿りつく能力について述べてみた。

さて、今回は早期母子接触からの赤ちゃんの動き、首を動かし、母親の乳首にパクッと吸い付き、まだ母乳は出てないが吸啜するという驚くべき反応を赤ちゃんの立場から考えてみることにする。

ところで、この文章は、2022.10の母乳フォーラムの伊藤朋子さんの発表に大いに触発され、目覚め、赤ちゃんの動きを赤ちゃん目線からもう一度見直すことによって生まれた考察によっている。

全ての哺乳動物は生まれてすぐにその母親の乳首にしゃぶりついて母乳を吸うじゃないか、ヒトもそうであるにすぎないよ、と言われればそうかもしれないが、そういう発想は自分が赤ん坊の時のこと等忘れてしまって（当たり前だが）、赤ちゃん目線ではなく、大人目線になっていることにまず私たち「専門家」は気付く必要がある。

実は赤ちゃんは大変な苦勞と能力を駆使して母親の乳首に吸いついているのである。

1. まず、指しゃぶりについて考える

では、いきなりだがまず赤ちゃんの吸啜について考えてみる。吸啜という行為は赤ちゃんが胎内にいる時に開始する指しゃぶりから始まっている。

赤ちゃんは胎内で指しゃぶりを開始している。これは超音波などで見る事が可能で、中には生まれた時に指しゃぶりによって既に吸いだこを作っている赤ちゃんもいる。この体内での指しゃぶりが出生後の吸啜運動の基礎になっている。ところで、これは多分あまり関心を持たれていないと思うが、指しゃぶりはほとんど親指であることだ。これは万国共通である。（もっとも、国なんて人類が発生した随分後になって人間が勝手に作ったものだから国に関係なく人類共通な行動があるのは当たり前のことかもしれないが）。これは多分、親指が吸いやすいこともあるが、母親の乳頭に一番親指の形が近いので、親指を選択しているに違いないと私は信じている。この胎内での親指への指しゃぶりが、出生後赤ちゃんが何のためらいもなくの母親の乳首に吸い付き、吸啜する運動を導き出している。この胎内での指しゃぶりは出生と同時に消失する。これには理由がある。大きな理由は、そこに母親の乳首があるから指など吸わないで乳首を吸えばいいし、その方が母乳も出てくるし赤ちゃんも楽しいに違いないということだ。もう一つは、これは生命の神秘とも言えることだが、胎内では羊水があるために浮力が働いている。胎児は、この浮力を利用して力を用いることなく自分の指を口にもってき吸うことを可能にしている。これが胎内での指しゃぶり＝吸啜運動を可能にし、支えている。ところが出生後は、羊水は無くなるため、浮力は消失してしまい、代わりに地球上の重力が登場する。赤ちゃんが指しゃぶりをするためには、この重力に打ち勝って自分の手を口を持ってこなければならぬが、出生後は前述の通り指しゃぶりの必要性は無くなり、母親の乳首を吸えばいい。指しゃぶりはその必要性もなくなり、また出来なくなるという訳である。これは何とも絶妙に作られた生命界の神

秘なのである。実はこの出生直後からの時期に指しゃぶりが自由に出来れば、赤ちゃんはそれこそ指と乳首との乳頭混乱を起こすかもしれない。

ちなみに、赤ちゃんは授乳・哺乳が安定してくる時期の2ヶ月になると、力もついてきて、重力に打ち勝ち自分の手を口に持ってこれるようになり、指しゃぶりも始まって来る。指しゃぶりには「自己鎮静作用」があるとも言われており、赤ちゃんも楽しんでいるのかもしれない、決して母乳が足りないからではない。不要な人工乳の補足などしないように、このことを母親には知ってもらおうとよい。赤ちゃんはこのような時間的経緯を経て母乳を上手に飲むようになる。胎内の時から頑張っているのである。

2. 授乳反射が持つ生命活動の意味

さて早期母子接触で母親の乳房に辿りついた赤ちゃんは、今度は乳首を探し当て、パクリと食いつき、そして指しゃぶりで練習した吸啜を行う。われわれ「専門家」はこの赤ちゃんの乳首を求め吸い付く一連の動きを「授乳反射」と呼び、3つの動きに分類している。

- 1) 探索反射：赤ちゃんの頬、唇、口の近くに指などで触れると乳首を探すような動きをしてそちらに口をもっていく。
- 2) 口唇反射：乳首、指を口腔内に入れると、しっかりくわえる。
- 3) 吸啜反射：それを強く吸う。

これらの一連の反射行動によって赤ちゃんは母親の乳首を吸うことが出来る、と理解され、教え伝えられている。

確かに赤ちゃんの動きは生来の反射行動として説明出来るかもしれない。

考えてみるとこの赤ちゃんの動きは、数百年前に人類が誕生してから、綿々と続いているのである。灯りなどなく、夜は本当に真っ暗な中（夜に灯りが使われ始めたのは歴史的にはつい最近のことになる）、しかも生まれて数カ月、視力は0.02程度であり、灯りも無く、何も見えない中で、どこに母親の乳首があるか分からなくても、まずその匂いを頼りに向かって行き、母親の乳首のあたりに辿り着く。そして自分の顔に乳首が触れると、というより乳首の方向に自分の顔を持って行き、乳首を探し当てるとそこに自分の口を持って行き（これが探索反射なのだ）、口唇—吸啜反射と我々が呼んでいる動きで乳首をくわえ、そして吸い、母乳を飲み込むのだ。我々はこの動きを赤ちゃん反射行動による、と理解しているのが、実はこれは赤ちゃんが生き抜くために行っている必死の生命活動に他ならないと言えないだろうか。

現在は確かに乳児死亡率1.0を切っているが、私が生まれた昭和の20年代でも200であった。いわんや古代においては生き抜くことは命がけであったと予想される。赤ちゃんたちはこの世に生まれると同時に400万年の間に生きる闘いを開始し、維持してきたのだ。この動きを我々は赤ちゃんの反射として当たり前のこととして赤ちゃんをのんびりと眺めるだけではなく、ひたすらな畏敬の念を持って小さな生命に接するべきだと考えている。

赤ちゃん頑張れ!!

みやぎ母乳育児をすすめる会 ワークショップ2023@Zoom開催報告

仙台市立病院 山本 優子

今年度のワークショップは当初、対面での開催を予定しておりましたがCOVID-19の感染状況を考慮し2023年2月26日（日）にZoomを使用し、オンラインで開催いたしました。

今回のワークショップも基調講演とグループ討論を行いました。基調講演は当会上席理事の堺武男先生による「赤ちゃん行動の不思議を探る－母乳育児とその支援のために－」をテーマにご講演いただきました。

堺先生のご講演を拝聴し、自分のケアがオーダーメイドの支援になっているか、ケアの「主語」は誰なのか、誰のための何のための母乳育児支援なのか、深遠ですが、襟を正して向き合わなければいけないと感じました。そして、私たちは正しい知識をもって支援する義務、学び続ける必要があることは当然の事として認識していますが、本当にできているのでしょうか。ともすれば日々の業務に忙殺される、経験年数が悪い方向に影響している等、母子を型にはめた典型的な、いい加減な支援になっていないか質の検証も怠ってはいけなかったと感じました。それは「やさしさには意思が必要だ」という先生のお言葉に表現されているのかもしれませんが。「意思あるやさしさ」の真の正解は今の自分は未熟でまだ分かりませんが、学び続け、一組一組の母子に丁寧に接し続けることでヒントが見えてくるのかもしれませんが。

またグループ討論は「今、支援で困っていることを語ろう」と「母乳育児は大変で辛いものなのか」をテーマに2グループで話し合いをしていただきました。これまでは主に事例検討を行っていましたが、今回は当会理事のメーリングリストで過去に意見交換がされた話題を基に6つのテーマで募集し、申込みの多かった2つのテーマで行いました。討論時間を発表も含めて90分間に延長しましたが、話し足りず、もっと踏み込んだ討論が展開されたかもしれませんが、参加者の皆様からのアンケート結果は概ね好評でしたので、ひとまず胸をなでおろしています。日頃悩んでいることは支援者にとって共通であり、他施設の支援や意見を参考にし今後にお役立ていただければ幸いです。今後はBFH施設以外からの参加もあると、議論や母乳育児支援の輪は広がっていきけるのではないかと思います。

総合司会の大槻先生の閉会の挨拶で、改めて社会の変化とその中に置かれている母子の状況を感性豊かに汲み取る力とそれに対応した支援を迫られており、ただ単に母乳で育てられるような支援だけを行う時代ではないことを実感しました。

この度は、初めてのオンラインによるワークショップ開催ということで、準備段階から手探りや不手際が続き、皆さまには多大なご迷惑とご心配をおかけしたと思います。みなさまのお陰で無事に終了いたしました。反省点、改善点は次回に活かしましょう。ご協力、ありがとうございました。

開催報告書

開催日時 2023年2月26日（日）11：00－14：00

場 所 Zoomを使用したオンライン開催（基調講演の堺先生、総合司会の大槻先生はそれぞれご自宅等から遠隔でご参加いただき、事務局、担当者は青葉先生のクリニックに集合）

参加人数 基調講演のみ10名 基調講演＋WS 10名 計20名

アンケートは-googleフォームを使用した。回答率45%。

今後に向けて改善点等

<運営に関して>

- ・事前連絡が不足していたのでリハーサルは行った方がよい
- ・総合司会と、事務局は同じ場所にいたほうがやりやすい
- ・今回はファシリテーターがPowerPointを作成も担当したが、PowerPoint作成とファシリテーターは別の方がよい（理事が2名必要）
- ・ニュースで告知したが、HPで告知されていなかった。宣伝方法について要検討

<Zoomの操作、設定などデジタル技術に関して>

- ・参加者の技術的なスキルに差があるのは仕方ない所だが、Zoom画面の名前の変更ができない方がおり、参加確認が難しい、チャットでの呼びかけも気がつきにくい、参加者側の設定と思われるが、マイクが機能せず。ほとんど聞こえないまま終わった方がいた

<申込と返金について>

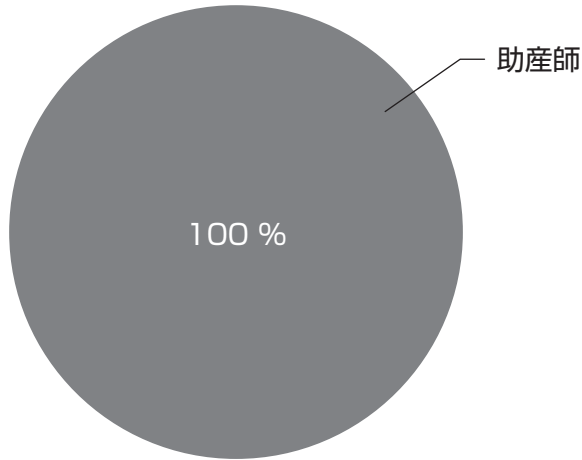
- ・会員と非会員を間違えてチケットを申込む等、申込内容の重複等の間違いが多い。連絡が取れずに一苦労した例もあり、人数が増えた際を想定し申込方法は改善等が必要である
 - ▶申込時に本人都合の返金はしない事を明記した方がよい
 - ▶基本的にはPeatix上で返金手続きを行うことに統一した方がよいだろう
 - ▶Peatixからの申込のみの方が参加者への一斉連絡が可能で簡便である

<今後に向けて> *個人的な感想です

輪番制で担当した場合、数年に1回の担当となる可能性がある。準備に関することを忘れてしまう。数年は同じ施設で担当し、最後の1年は、次回担当施設と共同開催として開催準備をリレー式に知ってもらう方法はいかがか。それにより事務局の負担軽減になるのではないかと感じた。

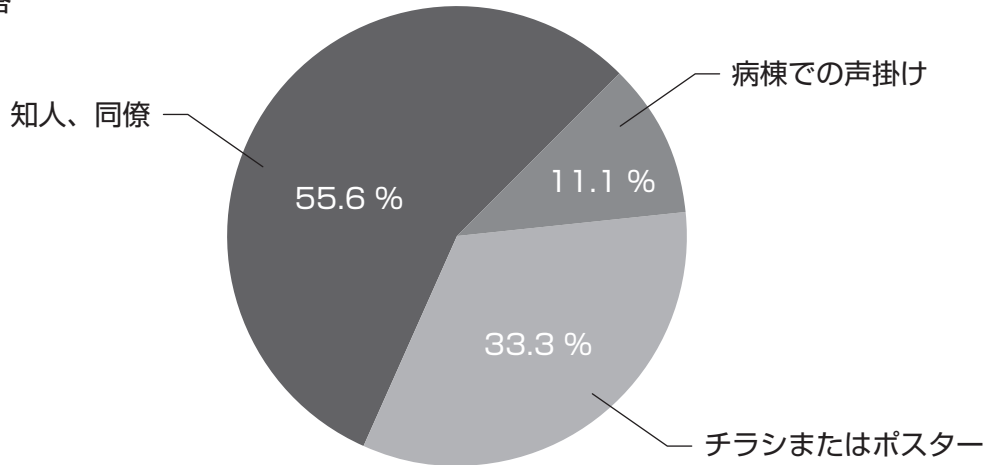
① 主なご職業を教えてください

9件の回答



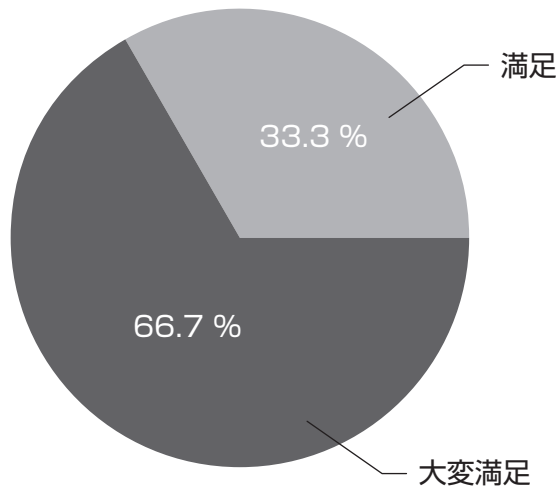
② 今回のワークショップを知ったきっかけを教えてください

9件の回答



③ 基調講演はいかがでしたか

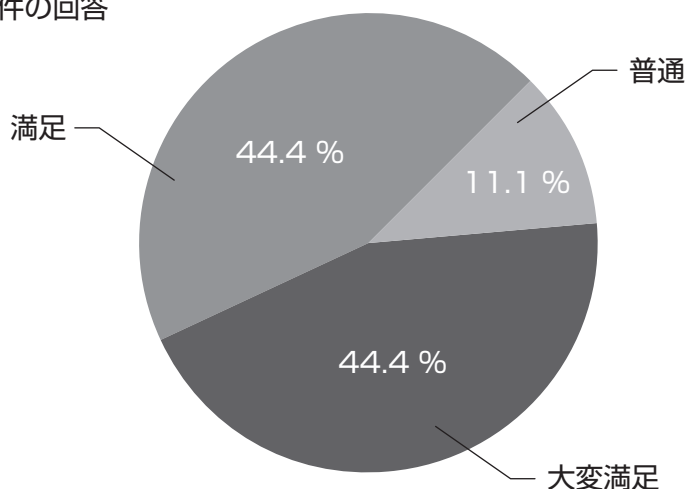
9件の回答



理由をお聞かせ下さい (6件の回答)

- ・わかりやすかった
- ・母乳育児の重要性について更に理解を深められました
- ・赤ちゃんについて知らないことがたくさんありとても勉強になりました
- ・とてもわかりやすく勉強になった
- ・分かりやすく、ためになるものだった
- ・とても勉強になった

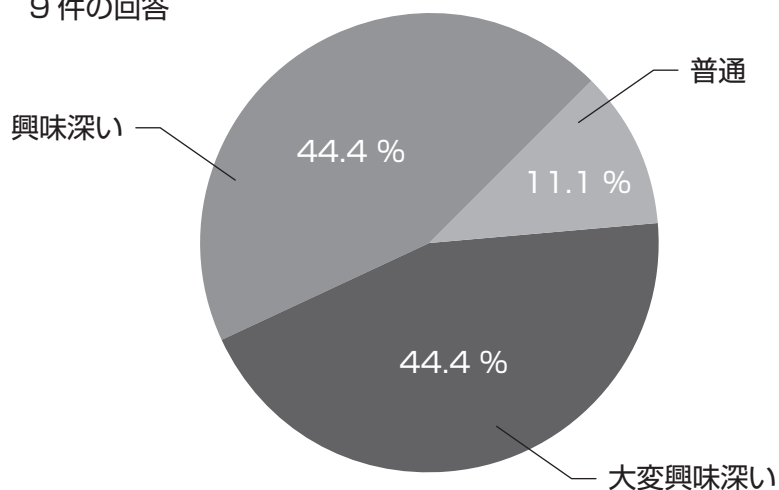
④ ワークショップに参加された方にお伺い致します。参加されていかがでしたか
9件の回答



理由をお聞かせ下さい (6件の回答)

- ・たくさんの意見を聞くことができた
- ・他院での取り組みや、悩みを共有出来て大変有意義でした
- ・他の施設の状況と意識について話し合えて勉強になった
- ・他の病院の意見も聞けて良かった
- ・色々な話が出来てとても良かった
- ・皆さんの困っていることが聞けてよかった

⑤ 今回、参加された方全員にお伺い致します。ワークショップのテーマはいかがでしたか
9件の回答



理由をお聞かせ下さい (6件の回答)

- ・悩んでいたことだったから
- ・自分が困っているテーマであった
- ・働いていて悩むテーマだったから
- ・困っていることについて聞けたから
- ・自分自身疑問に思っている内容だった
- ・今後に生かせるものがたくさんあった

今回のワークショップ全体についてのご意見、感想や当会に期待、希望することがあれば教えてください
0件の回答

今後ワークショップや定例会、フォーラムなどで取り上げて欲しい内容はございますか？
0件の回答

宮城版ワークショップ2023 @ Zoomにファシリテーターとして参加して

仙台市立病院 芳賀 深雪

COVID-19の感染状況を考慮し、オンラインで開催することとなった今回のワークショップ。対面式ではないオンラインという環境下で、積極的に意見が出るのか、各個人の熱量が伝わるのか、何よりグループワークが出来るよう見守り、必要に応じてサポートする役割を担うことができるかなど、心配を抱えながら当日を迎えました。

「今、支援で困っていることを語ろう」というテーマのグループワークに参加しましたが、個人ごとに表出があり、前述の心配は一掃されました。施設は違えど、抱えている困りごとは、【コロナ罹患による母子分離のケアへの違和感、今時と言われる母への対応の方法、授乳に対する意欲の減退、安易にミルクを足そうとする思考、預かりについて】など同様であり、共感を誘っていたように思います。おそらく時間の制約が無ければ、もっとたくさんの表出が得られたことでしょう。

堺先生の講演を拝聴後、グループワークに入ったこともあり、「母乳そのもの、授乳そのものが大切なのだ」という原点をお母さんたちに伝えたいといった意見や、コミュニケーションの大切さを思い返すなど、ケアとは何か、誰のために何のために行うものなのかを改めて考える時間となりました。また、母乳育児支援は「母乳育児成功のための10か条」へと繋がるのだなと実感しました。

ファシリテーターの役割としては、終了時間が迫る中、意見が出尽くす前にまとめを促してしまったり、PowerPointを作成しながら話を聞いていたために、途中返答に詰まったりと至らない点もあったと反省しましたが、見守るというスタンスを保てたことは良かったと感じています。

以前より「お母さんが苦しくなったり、涙が続くような支援は、良い母乳育児支援ではない」と言われています。正直、一時的なお母さんの負担感は否めないと思いますが、その時々を頑張りやを労い、疼痛があるようなら解消できるようサポートを行い、展望をお伝えすることで、お母さんがその時期を乗り越えることが出来る力があると信じています。そしてお母さんが前向きに育児を楽しむことが出来るような状態でいられるよう、いつでも相談ができる身近な助産師でありたいと思いました。

今回の宮城版ワークショップ@2023に参加し新しい知見が得られる事、語り合う事、学ぶことが楽しいことだと思い出しました。約3年のコロナ禍を経て、このように交流できる学びの場が徐々に復活しつつあります。対面であればもっと熱量高く意見交換ができたのかもしれませんが、オンラインだからこそ自宅から気軽に参加できるメリットもあったと思います。音声や名前の表示方法などオンライン開催による課題は挙がりましたが、今後、運営がよりスムーズになり、参加いただく皆様に楽しんでいただけるよう、改善を図っていきたいと思います。

今、支援で困っていること

坂総合病院 小野寺はるか
坂総合病院 柿崎愛華
東北公済病院 三浦万里
仙台市立病院 木幡真紀子
仙台市立病院 岸根初恵

ファシリテーター : 芳賀深雪

今困っていること。

- ▶ 育児を頑張ろうという意欲が見えてこない。人任せの印象。
- ▶ COVID-19陽性の方の支援では母乳を廃棄しなければいけない。母子分離の辛さがある。
- ▶ どこまで介入すればいいのか悩む。
 - ・経産婦で授乳の様子を見せてくれないことがある。
 - ・初産婦で搾乳の補足の方針をすすめた際等に、母乳育児支援の声掛けや支援方法に悩む。
- ▶ 1時間以上授乳をしていて休息が取れない母にどのような支援をしてあげればいいのか悩む。預かる？授乳を続ける？

各病院における今の母乳育児支援は？

- ・妊娠中はMCで母乳の良さを伝えていく。
- ・産後は母乳育児の大切さを伝えていく。
- ・母と一緒に方針をすすめていくようにしている。
- ・乳頭形状などの確認を外来で実施。必要であればお手入れの方法を説明。
- ・オンラインMC（授乳の話がメイン）で授乳姿勢の確認。
- ・実際の赤ちゃんにもオンラインで参加してもらい、産後の育児のイメージを高めてもらっている。
- ・母乳分泌機序について説明しているが...こんなはずじゃなかったといわれてしまうため、支援として不足を感じている。
- ・授乳が頻回になった際には、預かることも必要。児を預かってもらえなかったという思いに駆られ、自分のことを大切に扱ってもらえなかったと思わせないようにすることも大事だと感じるため。

母乳でやりたいけど頑張れない母親が増えてきた。

- ▶ 母乳をしたいといわれて、いざ母乳育児を行ってみるが、その後は意欲が続かない。ミルクを使いたいといわれる。
- ▶ 職場復帰を見越してミルクを使用したい、哺乳瓶を使いたい、慣らしたいという人が多くなった。
- ▶ 曖昧な知識のままなんとなく混合を選択する人も増えている気がする。
- ▶ 乳頭痛でもう無理と言われて、次第に直接授乳から離れてしまうことが増えてきた。
- ▶ 個人のスタッフの力量が異なる

スタッフとしてできること
していること



- *亀裂を作らないように、授乳姿勢を確認する。
⇒亀裂ができると授乳そのものに嫌悪感の感情を母が抱いてしまう。
- *飲めるかなシートで授乳姿勢を母とスタッフで確認できるようにしている。

お母さんと一緒に支援をすすめていくためにどのような援助をしていけばいいのか。

お母さんの母乳育児の気持ちを高める・低下させないことが必要。

- ⇒ 1-3日目まで母乳分泌が追いついてこない時期に「準備段階だから大丈夫ですよ」と安心させる声掛けを行う。
- ⇒ コロナ罹患で母子分離しているお母さんにも「赤ちゃんにとっては大切な栄養ですよ。今していることが十分効果的です。」など母子を結びつける声掛けなどの支援を行う。
- ⇒ 「母乳そのもの、授乳そのものが大切。」とさっきの講演を聞いて思った。そのことを噛み砕いてメカニズムとともに母に伝わる言葉で伝える。
- ⇒ 主体的な行動に結び付けていけるようにサポートしていく。
- ⇒ メリット・デメリットをきちんと伝えていく。(もともと何も知らないでお産を迎えている母もいるはず。)
- ⇒ 母のゴールとスタッフのゴールを共有する(乖離しないようによく話し合う)
- ⇒ 勝手な思い込みをいったん外す。とことん話し合う。

まとめ

- ▶ お母さんとスタッフと、正しい情報を共有して、コミュニケーションをとる
- ▶ お母さんとスタッフ、互いの思っていることを理解して双方のゴールをすり合わせる
- ▶ さらにお母さんが頑張れるゴールの地点を先に示して、母の成長を促す手伝いをする。

2022年度 第4回 理事・幹事会議事録

日 時：2023年2月6日(月) 18:34~19:40 於：Zoom

出席者：理事長：青葉 副理事長：中村

理 事：山本・佐藤祥・加藤・飯田・藤本

幹 事：芳賀・渡邊佐

事務局：熊谷

オブザーバー：高橋有(東北公済病院)・武石(東北大学)・山田(宮城大学)(書記)

1. ワークショップの進捗状況報告 担当：山本理事、芳賀幹事、事務局熊谷

<確認事項>

日 程：2023年2月26日(日) 11:00~14:00

11:00-11:15 開会 総合司会：大槻

11:15-12:00 基調講演

「赤ちゃん行動の不思議を探るー母乳育児とその支援のためにー」 講師：堺監事

12:10-13:20 ワークショップ

13:20-14:00 発表・講評・まとめ/修了書発行

場 所：Zoomミーティング (ホスト：青葉理事長)

申し込み締め切り：2023年2月10日(火)

広 報：当会ホームページへ

参加費：会員は無料・非会員は1,500円、ワークショップ+基調講演、基調講演のみも同額

・申込状況：講演のみ 3名

講演+WS 3名(非会員を含む) *希望のテーマについては現在確認中

・1名重複して申し込みがあったが、キャンセル料として340円かかるため該当者に連絡を取る
ことになった

・ブレイクアウトルームを使用してZoomで実施することを確認した

・当日の運営は青葉こどもと親の歯科医院で行うことになった

・参加者に本(やさしい育児の本)を郵送にて贈呈することになった

・Peatixで参加者へ配信できるよう講演の原稿を来週中に事務局へ提出することを確認した

・2月10日(金)以降にファシリテーター等の調整を行う予定である

2. 来年のフォーラムについて

・堺監事より今年で設立30年の記念になるため、この会の活動をアピールする機会としたほうがよいのではとの意見が出された

- ・少子化の問題について取り上げるのものよいのではないか
- ・講師についてはメーリングリストを使用して、30周年にふさわしい講師を検討していくことになった

3. 当会設立30周年記念行事について

今後フォーラムと併せて検討していく予定である

4. 定例会 担当：渡邊(佐)

日 時：2023年5月26日(金)前後で調整することになった

場 所：開催方法については今後検討することになった

内 容：K2シロップに関するテーマ（仙台医療センター千葉先生・宮城県立こども病院虻川先生？）や、県内の産婦人科医による講演会など、メーリングリストで意見を募ることになった

参加費：無料の予定

方 法：Peatixで申し込み、Zoom開催予定（坂病院で開催できるかどうか担当者が確認予定）

広 報：チラシやバナーの作成は青葉理事長より大友理事に確認することになった

5. 5月発行ニュースNo.60について 担当：大友理事、山田(校正担当)、事務局熊谷

- ・発行予定：5月初旬 当会ホームページに告知、メール添付によるWeb配信の予定
- ・原稿担当：巻頭言：大槻副理事長（青葉理事長から依頼）

母乳育児奮闘記：堺監事

ワークショップ報告：山本

定例会のお知らせ：渡邊佐

フォーラムについてのお知らせ：事務局

本の広告：事務局

会員募集：事務局

理事・幹事会議事録：事務局・山田

- ・スケジュール：青葉理事長から大友理事に確認する
完成は4月28日(金)目途とする

6. その他

1) ホームページについて 大友理事、事務局熊谷

- ・ログインをする人数が少ないため、会員専用ページの継続が必要かどうかとの意見があったことからメーリングリストで意見を募ることになった
- ・事務局から情報の更新がされていないところがあるとの意見が出されたことから、青葉理事長

から大友理事に相談することになった

2) 事務局より

- ・ 母乳率調査データ使用許可の問い合わせがあった龍谷大学の大学院生から、事務局へ発表用スライドのメール添付があった。また完成した論文の別刷りを今後頂く予定である。この発表用スライドはホームページに載せる方向で、青葉理事長と大友理事で相談することになった
- ・ 今後の運営について現在の業務内容の整理、事業内容、運営方法などについて意見を募集しているが、ほとんど意見がないため引き続き意見を頂きたい
- ・ 本の販売について資金面が厳しい状況があることから、本の販売促進について継続して協力をお願いしたい

次回 第4回理事会・幹事会：2023年4月3日(月) 18:30～ (Zoom)

2022年度 第5回 理事・幹事会議事録

日 時：2023年4月3日(月) 18:30~19:40 於：Zoom

出席者：理事長：青葉 副理事長：中村

理 事：洞口・加藤・相澤・藤本・飯田・佐藤祥

監 事：堺

幹 事：渡邊(坂総合病院)・近江(坂総合病院)・高橋有希(東北公済病院)

事務局：熊谷

オブザーバー：武石(東北大学)・山田(宮城大学)

1. ワークショップの開催報告 担当：青葉理事長、山本理事、芳賀幹事、事務局熊谷

日 程：2023年2月26日(日) 11:00~14:00

総合司会：大槻副理事長

プログラム：11:15-12:00 基調講演 講師：堺監事

「赤ちゃん行動の不思議を探る - 母乳育児とその支援のために -」

12:10-13:20 ワークショップ

13:20-14:00 発表・講評・まとめ/修了書発行

場 所：青葉子どもと親の歯科医院からZoomミーティング (ホスト：青葉理事長)

ワークショップの振り返り：別紙参照

- ・リハーサルは行ったほうがよかった
- ・話し合い時、ファシリテーターと記録 (PowerPoint作成) に、理事が1グループに2名以上いたほうがよい
- ・HPに開催情報が掲載されていなかったため、宣伝方法について要検討
- ・Zoomの表示名が修正できない等技術的問題がある参加者に対して、電話でやり取りしたとの報告に対し、ホストが名前を修正できることを確認した
- ・重複での申し込みや会員と非会員などに対して返金はしないことを明記したほうがよいかとの意見があり、HPやPeatixに明記することになった (返金するかどうかは後で検討する)
- ・Peatixのみのほうが運営としては楽ではあるが、Peatixにうまく入れない一定数にはメールで対応していく
- ・山本理事より、数年に1回の担当であると手順を忘れてしまうため、数年同じ組織が担当し、最後の1年は次年度以降の担当者と共同開催にしてはどうかとの意見があった
- ・アンケート結果から、内容は好評だった
- ・事務局熊谷より、会員と非会員でPeatixを分けたところ、間違えて申し込んだ人が2名いた。そのうち一人は会員費を後ほど払ってくれたが、1人は払っていなかったため事務局で確認

が必要だと思ったとの報告に対し、Peatixで会員・非会員で選択する方法とメールアドレスと電話番号を聞いておき、連絡が取れるようにしておくのとよいのではないかとの意見があった

2. 定例会について 担当：渡邊幹事、近江幹事、事務局熊谷

渡邊幹事より定例会に関して以下のように説明があった。

日程：2023年5月26日(金) 18:00~19:00 (17:30開場)

18:05~18:50 講演

18:50~19:00 質疑応答

講師紹介：青葉理事（共同ホスト）

場所：坂総合病院からZoomミーティング（ホスト：坂総合病院）

講師：千葉 洋夫先生（仙台医療センター小児科・新生児科医長）

演題：「母乳に足りないもの ビタミンK ビタミンD」

<協議事項>

チラシ：別紙参照

プログラム：別紙参照

運営担当者：別紙参照 *事務局熊谷当日会場で参加予定

Peatix担当：渡邊幹事、近江幹事、事務局熊谷 バナー作成/大友理事に依頼済み、
確認・修正が必要

受講証明書：各自でダウンロードする形式で準備する

広報/担当：当会メンバー/東北母乳の会/助産師会/オケタニ研鑽会東北メンバー

県内・外助産科（東北大学・東北福祉大学：武石、仙台医療センター附属仙台看護
助産学校・スズキ病院附属助産学校、山形県立保健医療大学：山田、宮城県助産師
会：武石 他事務局）

<確認事項>

- ・坂総合病院で使用するZoomのアカウントの契約状況を確認（定員・時間など）
- ・講師の千葉先生の都合に合わせてテストを行う（Zoomの待機室機能を利用した直前のテストについて相談する）
- ・講師謝礼をどうするかどうか→図書券など検討
- ・全国から参加者を募集してはどうか（堺監事）

3. 東北母乳の会 担当：事務局熊谷

日 程：6月3日(土)

場 所：弘前市

講 演：網塚貴介先生（青森県立中央病院 成育科部長）

テーマ：産後ケア

<協議事項>

- ・東北母乳の会齊藤先生から、各地の産後ケアの実際について講演依頼があった（7分/県、質疑3分、6県60分程度）
- ・堺監事より1歳までの産後ケアは他県でも珍しく、ワクチンや保育士の必要性などしっかり伝えることが必要であり、なるみ赤ちゃんこどもクリニックでの実践報告がよいのではないかとの意見があった
- ・対面かハイブリットか発表方法を確認し、なるみ赤ちゃんこどもクリニックへ依頼することになった（青葉理事長）。なるみ赤ちゃんこどもクリニックが難しい場合には前回の母乳フォーラム in みやぎで発表した講師へ依頼することになった
- ・青葉理事長は、当日現地で「やさしい育児の本」販売予定との報告があった

4. 今年のフォーラムについて 担当：青葉理事長

5. 当会設立30周年記念行事について 担当：青葉理事長

- ・4と5は同時に行うことが報告された
- ・堺監事に30周年の講演会を依頼したところ、現在の育児状況において母乳育児をどのように支援していくのかについて話し合う機会にした方がよいとの意見があった
- ・堺監事の意見を踏まえて桜美林大学 山口創先生に依頼することになった

6. 5月発行ニュースNo.60について 担当：大友理事、山田(校正担当)、事務局熊谷

- ・発行予定：5月初旬 当会ホームページに告知、メール添付によるWeb配信の予定
- ・原稿担当：巻頭言：大槻副理事長（青葉理事長から依頼）

母乳育児奮闘記：堺監事

ワークショップ報告：山本

定例会のお知らせ：渡邊佐

フォーラムについてのお知らせ：事務局

本の広告：事務局

会員募集：事務局

理事・幹事会議事録：事務局・山田

- ・スケジュール：大友理事に確認する

完成は4月28日(金) 目途とする

7. その他

1) ホームページについて 事務局熊谷

- ・ログインをする人数が少ないため、会員専用ページは無くすことになった

- ・事務局から情報の更新がされていないところがあるとの意見が出された（大友理事へ青葉理事長から依頼）
- ・ワークショップの基調講演をYouTubeにアップする予定（担当は大友理事）

2) 事務局より報告

- ・母乳率調査データ使用許可の問い合わせがあった龍谷大学の大学院生から、事務局へ発表用スライドのメール添付があり、完成した論文の別刷りを今後頂く予定である。この発表用スライドをホームページに載せる方向であるが、著者に掲載の許可を事務局で確認する
- ・ワークショップ開催のマニュアルを山本理事・芳賀理事に作成していただいた。今後の会の運営に向けて、そのマニュアルも参考にしつつ、定例会、東北母乳の会、フォーラム等のマニュアルについての意見を随時募集している
- ・仙台市立病院で「やさしい育児の本」を10冊購入していただいた。またNPOプラザでの本の委託販売は継続することが認可された
- ・資金面が厳しい状況があることから、本の販売促進について継続して協力をお願いしたい
- ・新年度になったので新入の方、異動者の方に入会の呼びかけ、住所変更などあれば、事務局にお知らせ頂くように呼びかけをお願いしたい

次回 第6回理事会・幹事会：2023年6月5日(月) 18:30～ (Zoom)

「第14回東北母乳の会 in あおもり」のご案内

あおもり母乳の会事務局

拝啓

時下、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

あおもり母乳の会は、2007年結成総会を行い、その後、青森市・八戸市・五所川原市・弘前市などで学習会を開催してきました。2008年は青森市浅虫温泉にて東北母乳の会を開催、東北を一巡し、2015年に再び青森での開催となり、弘前市ヒロロで、青葉こどもと親の歯科医院院長青葉達夫先生に「母乳育児中の口腔の問題～むし歯や舌小帯」、青森県立中央病院総合周産期母子医療センター新生児科部長網塚貴介先生に「ちょっとだけ早く生まれた赤ちゃんへの母乳育児支援」と題してのご講演を頂きました。そこからまた一巡して、2023年、東北母乳の会青森開催を迎えています。

皆で母乳育児を語る場として大切にしてきたあおもり母乳の会総会でしたが、コロナ禍により2020年に突然の総会中止後、2021年も2022年もほとんど活動できないまま現在に至っています。そのような中で、今回の東北母乳の会inあおもりを起爆に活動再開予定です。テーマは「親子と地域をつなぐ子育て支援～いま支援の輪をつなげよう（青森県版）～」としました。各県からは産後ケアの現状と課題を語って頂きます。基調講演は、我らが網塚先生（現在あおもり母乳の会事務局長）で「医療ケア児支援に学ぶ親子を守る地域づくり」です。

Zoom使用でのオンライン参加もできます。申し込みはPeatixです。

お手数ではございますが、同封のチラシをご利用いただきまして、周囲の方々にもこの会をご紹介頂ければ幸いに存じます。

敬具

4月吉日

第14回東北母乳の会inあおもり

親子と地域をつなぐ 子育て支援

～いま 支援の輪をつなげよう～
あおもり版

開催日

令和5年6月3日(土)

14:30～16:45

(ZOOM使用のハイブリット開催)

一般社団法人弘前市医師会館
4階 視聴覚室

住所: 青森県弘前市野田2丁目7-1

参加費

一般・学生・あおもり母乳の会会員 1000円

非会員の医療者 2000円

申込方法

オンラインの方も会場の方も事前申し込みを
お願いします。

申込期限: 5月27日(土) 18:00

<Peatix>

<https://aomoribonyuunokai.peatix.com>

講演「医療ケア児支援に学ぶ
親子を守る地域づくり」

網塚 貴介 先生

青森県立中央病院 成育科部長
こども・家庭支援推進監、
総合周産期母子医療
センター副センター長

プログラム

14:00～ 東北母乳の会受付

14:30～ 開会

シンポジウム

「各県の産後ケアの現状と課題」

15:30～ 基調講演

16:30～ 質疑応答

16:45 閉会



申込QRコード

主催: あおもり母乳の会 後援: 弘前市医師会/東北母乳の会/東北各県母乳の会

問い合わせ: 津軽保健生活協同組合健生病院
産婦人科内 あおもり母乳の会事務局

TEL: 0172-55-7717(代表)

みやぎ母乳育児をすすめる会

定例会 2023@Zoom

講演 「母乳に足りないもの
ビタミンK ビタミンD 微量元素」

〈講師〉千葉 洋夫 先生（仙台医療センター小児科・新生児科医長）

母乳育児支援に関わる皆様、育児中の皆様、母乳に関する大切なお話を聴いてみませんか？ ご参加をお待ちしています。

開会のあいさつ(18:00-18:05) 講演(18:05-18:50) 質疑応答(18:50-19:00)

対象 母乳育児に興味がある方はどなたでも

締切 2023年5月23日(火) 18:00

定員 390名

申込方法・詳細

以下のQRコードから、もしくは <https://teireikai20230526.peatix.com> からお申し込みください。

*ご参加申込みの方には、前日までに視聴URL・資料ダウンロードのご案内をPeatixからお送りします。
*アーカイブ配信は準備ができ次第、お申し込みの方にご案内します。

2023
5/26 金
18:00~19:00

参加費
無料



お申込みQRコード

お問合せ先：NPO法人 みやぎ母乳育児をすすめる会 事務局

メール：m.bonyu@gmail.com ホームページ：https://miyagibonyu.or.jp/

住所や勤務先、お名前が変わった方、退会を希望される方は事務局までお知らせください。また、当会では情報伝達を確実かつ迅速に行い、経費を削減して皆様へ還元するため、連絡手段やニュースレターのデジタル化を進めております。メールアドレスをお知らせ頂いていない方、メールでのお知らせが届いていない方は、事務局までお知らせください。当会宛にメールでお名前・ご所属・職種をお知らせ頂くか、会費納入時に振込用紙へ記載をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先

事務局：東北公済病院 母子センター

住 所：〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-3-11

E-mail：m.bonyu@gmail.com

特定非営利活動法人 みやぎ母乳育児をすすめる会
理事長:青葉 達夫
事務局:東北公済病院7階 母子センター
電話:022-227-2215(直通) e-mail:m.bonyu@gmail.com